

K O R G D I G I T A L P I A N O

CONCERT

コルグ デジタル・ピアノ コンサート

C-3000

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにもこの
取扱説明書をよくお読みになって、正しい方
法でご使用ください。

KORG



H Y P E R I N T E G R A T E D
S Y N T H E S I S S Y S T E M

安全上のご注意

WARNING:

TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



CAUTION

RISK OF ELECTRIC SHOCK
DO NOT OPEN



AVERTISSEMENT:
RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.

注意 感電の恐れあり、キャビネットをあけるな

CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK, DO NOT REMOVE COVER (OR BACK). NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.

マークについて

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近に置いて、お子様から専門家の方まで幅広く愛用していただけます。

デジタル・ピアノは大きくて重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での置き場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。小さなお子様には、最初にご家族の方が教えてあげてください。

警告



電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

設置は、水平で平らな床面に行ってください。

本製品を移動するときは、デジタル・ピアノ本体とスタンドを別々にし、必ず2人以上で持ち上げてください。

次のような場合には、直ちに電源を切り電源プラグをコンセントから抜いて、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。

電源コードやプラグが破損したとき

異物が内部に入ったり、製品に液体がこぼれたとき

製品が「雨などで」濡れたとき

製品に異常や故障が生じたとき



本製品は、キーカバーまたは譜面立ての開閉時に、指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分に注意してください。



修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。最寄りのコルグ・サービスセンターまたはコルグ営業技術課へ、必ず相談してください。

本製品の上へ乗ったり、下へもぐり込んで遊ばないでください。本製品の上へ、物を置かないでください。落ちると危険です。デジタル・ピアノ本体に、前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。

地震時は、本製品に近づかないでください。



電源コードは、無理に曲げたり、重いものを上に乗せないでください。電源コードに傷がつき危険です。

本製品を単独で、またはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合、設定によっては、永久的に難聴になる程の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

本製品に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水やジュースなど）を絶対にいれないでください。

次のような場所での使用や保存はしないでください。

温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）

ホコリの多い場所

振動の多い場所



濡れた手で、本製品を使用しないでください。



風呂場、シャワー室などで、本製品を使用しないでください。



本製品を水気のある場所で使用しないでください。本製品に水をかけたり、水をこぼさないでください。



この機器を分解したり、改造しないでください。

警告(スタンド)



付属のスタンドは、取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方法」に従って、確実にデジタル・ピアノ本体を設置し、使用してください。

長期間使用になりますと、スタンドのネジが緩む場合があります。使用中にスタンドの揺れを大きく感じるときは、安全のため、取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方法」に従って、ネジを締め直してください。

警告(イス)



付属の椅子は、ピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり踏台にすると、転倒したり壊れたりして危険です。



付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けしないでください。

注意



本製品は、正常な通気が妨げられることのない所に設置し、使用してください。

本製品は、マイクロ・コンピュータを使用した機器です。このため、ラジオやテレビなどを接近して同時に使用すると、それらに雑音が入ることがあります。また、ラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて、誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは、十分に離して使用してください。

他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

スイッチやつまみに必要以上の力を加えると、故障の原因となりますので注意してください。

外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は、絶対に使用しないでください（コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可）。



電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。



長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

目次

安全上のご注意	2
おもな特長	3
1.演奏するための準備	4
2.デモ・ソングを聴いてみましょう	5
3.音色をかえて弾いてみましょう	5
4.音色にエフェクトをかけてみましょう	6
5.メトロノームを使ってみましょう	7
6.ペダルを使ってみましょう	7
7.そのほかの機能	8
8.MIDI	9
9.故障とお思いになる前に	10
10.スペック	10
スタンドの組み立て方法	11
MIDIインプリメンテーションチャート	13
プログラムチェンジ対応表	14
鍵盤の各機能一覧	14

取扱説明書の表記について

スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[]で括弧しています。



使用上の注意を表します。

(P.) 参照ページを表します。

おもな特長

多彩な音色

コンサート・グランドピアノをはじめコルグ独自のHK (Hyper Integrated) シンセシス・システムによる豊かな表現力を生む高品位な7種類の音色を内蔵しています。また、同時に2つの音色を重ねた演奏もできます(レイヤー機能)。

エフェクト機能 (P.6)

ブリリアンス(音色の明るさ)を3種類の設定の中から選ぶことができます。

ステージやホールで演奏しているような残響(リバーブ)を与えることができます。効果の効き具合は3種類の設定の中から選ぶことができます。

メトロノーム機能 (P.7)

練習に便利な拍子、テンポをかえることができるメトロノームを内蔵しています。

ペダル効果 (P.7)

アコースティック・ピアノと同様に3つのペダルがあり、それぞれ、ダンパー、ソステヌート、ソフトの効果を得られます。ダンパー・ペダルは、アコースティック・ピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果を再現します。ダンパー・ペダルとソフト・ペダルは、ペダルを踏む深さで効果のかかり方が調整可能(ハーフ・ペダル機能)です。

タッチ・コントロール機能(P.8)

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを3種類の中から選択できます。

音の高さの調節 (P.8)

トランスポーズ機能により移調を、ピッチ・コントロール機能により音程の微調整をおこなうことができます。

MIDIの装備 (P.9)

電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりをおこなう統一規格MIDIを装備しています。

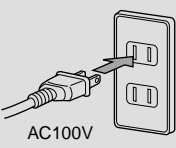
MIDIを使うと、接続した機器間で相互にコントロールすることができ、本機を16パート・マルチティンバー音源としても使用することができます。

演奏を楽しむためのエチケット

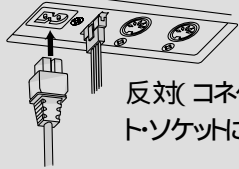
音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

1. 演奏するための準備

電源コードの取り付け
 電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。
 必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

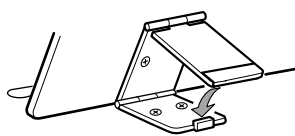


AC100V



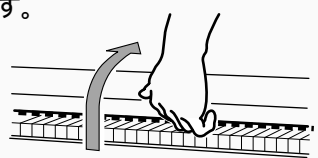
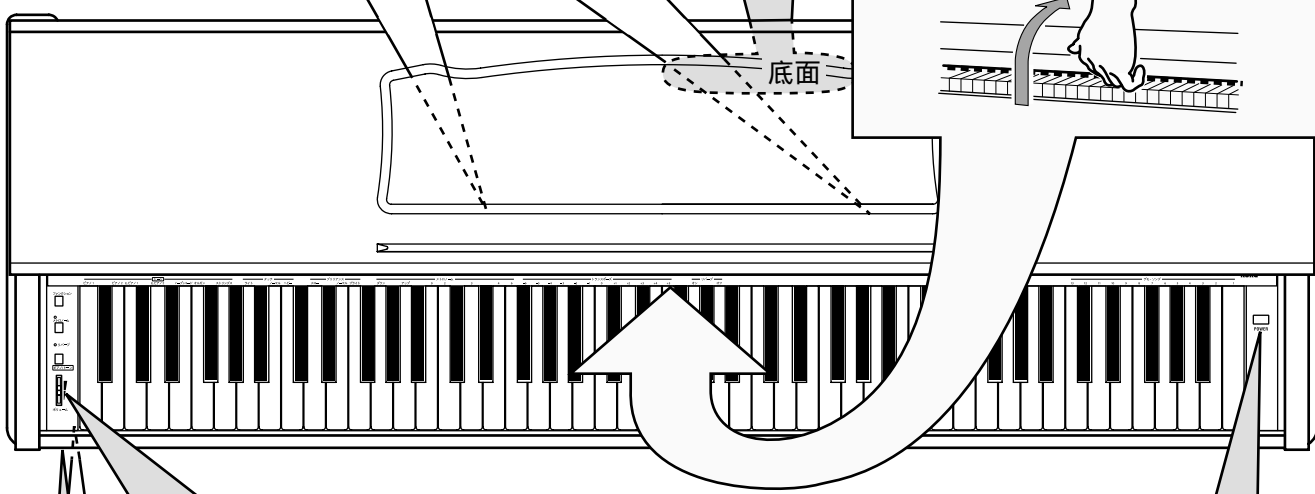
反対(コネクタ)側は、本体底面のインレット・ソケットに取り付けてください(P.12)

譜面立てを使うときは?
 譜面立てを起し、裏面についている2つのストッパーを使って倒れないようにします。

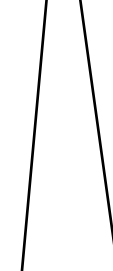


キーカバーの開け方
 ヘリの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに奥の方へスライドさせます。
 キーカバーを閉じるときは、ヘリの中央部分を軽く持ち、前方へスライドさせます。

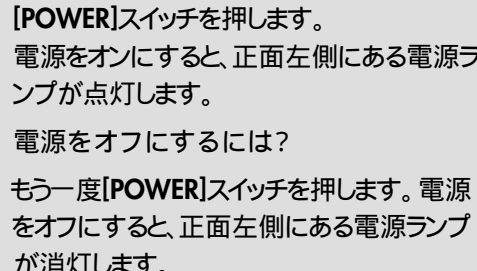
- ・ 開閉中は指や手を挟まないように十分注意してください。
- ・ 無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になることがあります。
- ・ キーカバーを開閉するときは、キーカバーの上に紙やコイン等がないことを確認してください。中に入り込む恐れがあります。

音量を調整する
 [ボリューム]スライダーを上動かすと音量が大きくなり、下動かすと音量が小さくなります。
 実際に弾きながら適度な音量に調節してください。
 [ボリューム]スライダーは、本体のスピーカーとヘッドホン端子から出力される音量をコントロールします。

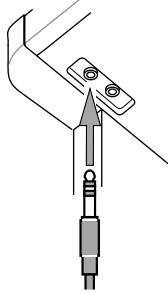


電源をオンにする
 [POWER]スイッチを押します。
 電源をオンにすると、正面左側にある電源ランプが点灯します。
 電源をオフにするには?
 もう一度[POWER]スイッチを押します。電源をオフにすると、正面左側にある電源ランプが消灯します。



ヘッドホンを使うときは
 ヘッドホン差し込むと本体のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。ヘッドホン端子は2つありますので、お二人で演奏を楽しむことができます。
 本体左下側にあるヘッドホン端子に、ステレオ・ヘッドホンのプラグを差し込みます。

- ・ ミニ標準の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、変換プラグを持ってプラグの抜き差しを行ってください。
- ・ ヘッドホンを使用するときは、耳の保護のために大きな音量のまま長い時間きかないでください。



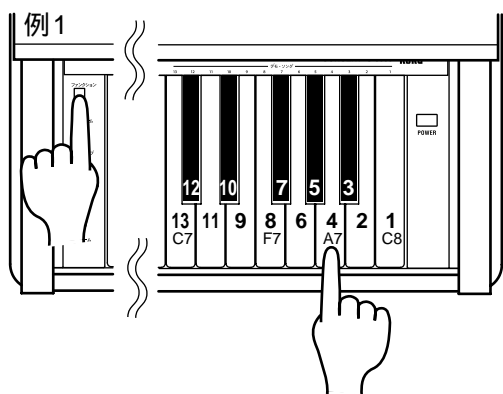
2. デモ・ソングを聴いてみましょう

デモ・ソングは13曲内蔵しています。デモ・ソングを聴いて豊かな音色と、その表現力を確認してください。

本体左端の[ファンクション]スイッチを押しながら、本体右側のパネルに表示されているデモ・ソングの番号の鍵盤(C7からC8)を押してください。押した鍵盤の番号のデモ・ソングの演奏が始まります。

演奏は選んだ曲から順番に止めるまでくり返し演奏します。

演奏を止めるときは[ファンクション]スイッチを押してください。



1:	幻想即興曲 Op.66/F.ショパン
2:	Harmony of Love/KORGオリジナル
3:	The Harp of Wind/KORGオリジナル
4:	The Garden/KORGオリジナル
5:	イタリア協奏曲 BWV971/J.S.バッハ
6:	フーガ ト短調/J.S.バッハ
7:	G線上のアリア/J.S.バッハ
8:	ワルツ 第6番 変ニ長調「小犬」Op.64-1/F.ショパン
9:	エリーゼのために/L.v.ベートーヴェン
10:	ソナタ K.331 第3楽章「トルコ行進曲」/W.A.モーツァルト
11:	貴婦人の乗馬 Op.100-25(25練習曲より)/F.ブルグミュラー
12:	別れの曲 Op.10-3/F.ショパン
13:	アラベスク 第1番/C.ドビュッシー

例1: デモ・ソング4(The Garden/KORGオリジナル)の演奏を聴く

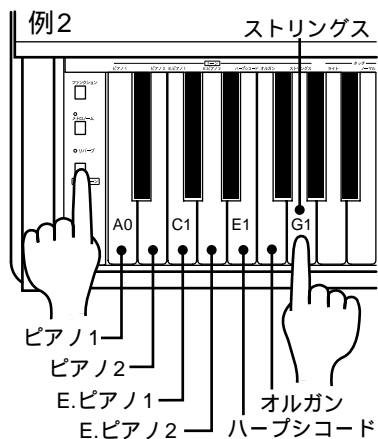
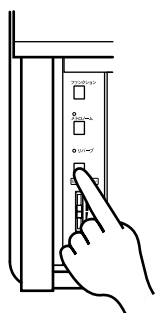
[ファンクション]スイッチを押しながら4(白鍵A7)を押します。デモ・ソング4の演奏が始まります。

3. 音色をかえて弾いてみましょう

本体左端の[ピアノ/トーン]スイッチを押すたびに、ワンタッチで音色をピアノ1とトーンに切り替えることができます。

トーンは内蔵の音色から1つ、または2つを重ねた(レイヤー機能 P.6)音色を選ぶことができます。電源をオンにしたときの音色はピアノ1、トーンにはE・ピアノ1の音色が選ばれています。各音色の特徴は下表の通りです。

ピアノ1:	臨場感あふれる最高峰のステレオ・グランドピアノの音
ピアノ2:	ジャンルを問わずオールマイティに弾けるグランドピアノの音
E・ピアノ1:	軽やかで透明感のあるエレクトリック・ピアノの音
E・ピアノ2:	アタック感があって切れのよいエレクトリック・ピアノの音
ハーブシコード:	クラシックな趣のある繊細なハーブシコードの音
オルガン:	荘厳なパイプオルガンの音
ストリングス:	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音



トーンの音色をかえる

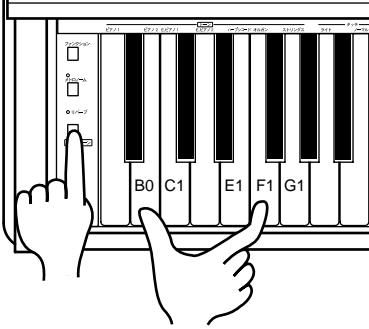
[ピアノ/トーン]スイッチを押しながら、本体左側のパネルに表示されているトーンの音色名の鍵盤(白鍵A0からG1)を押してください。押した鍵盤の音色にかわります。電源をオフにするとトーンの音色はE・ピアノ1に戻ります。

例2: トーンにストリングスを選ぶ

[ピアノ/トーン]スイッチを押しながらストリングス(G1)を押します。音色がストリングスにかわります。[ピアノ/トーン]スイッチを押すたびに音色がピアノ1とストリングスに切り替わります。

! ピアノ1は[ピアノ/トーン]スイッチでピアノに切り替えたときの固定音色です。レイヤー機能のときに重ねる音色としては選べますが、トーンの単体音色としては選べません。

例3



2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー機能)

音色を2つ同時に選ぶと1つの鍵盤を弾いたときに、2つの音色を同時に鳴らして演奏することができます。

[ピアノ/トーン]スイッチを押しながら、重ねたい音色名の鍵盤を2つ同時に押してください。

例3: ピアノ2とオルガンの音色を重ねる

[ピアノ/トーン]スイッチを押しながら、ピアノ2(B0)とオルガン(F1)を同時に押します。[ピアノ/トーン]スイッチを押すたびにピアノ1とレイヤー(ピアノ2とオルガンを重ねた)音色に切り替わります。

レイヤー音色をやめるには[ピアノ/トーン]スイッチを押しながら音色名の鍵盤を1つ押してください。トーンの音色が押した鍵盤の音色にかわります。

2つの音色のバランスをかえる

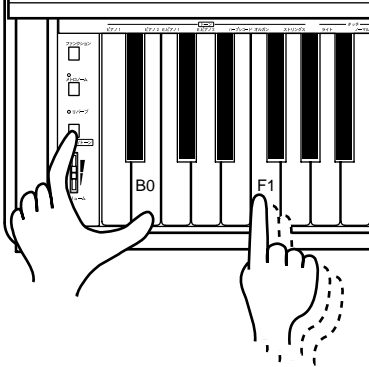
[ピアノ/トーン]スイッチを押しながら、重ねる音色名の鍵盤2つを押してください。このとき、音量を小さくしたい音色名の鍵盤を押しながら、音量を大きくしたい音色名の鍵盤を何度か押して音量を調整します。

バランスを取り直す場合は、もう一度 [ピアノ/トーン]スイッチを押してからやり直してください。

例4: ピアノ2の音量を小さく、オルガンの音量を大きくする

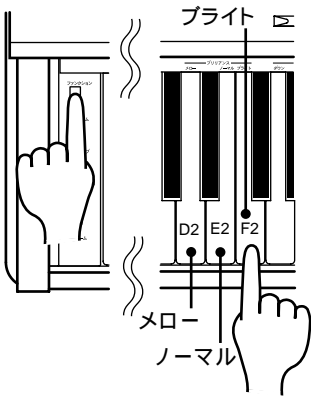
[ピアノ/トーン]スイッチを押しながら、ピアノ2(B0)を押します。そのままオルガン(F1)何度か押して音量を調整します。

例4



[ピアノ/トーン]スイッチと同様にして[ファンクション]スイッチを押しながら音色名の鍵盤を押して音色を選ぶことができますが、[ファンクション]スイッチではピアノ1とトーンのワンタッチ切り替えはできません。

4. 音色にエフェクトをかけてみましょう



▲ デモ・ソングの演奏中にブリリアンスやリバーブの設定は変えられません。

音色の明るさをかえる(ブリリアンス)

本体左端の[ファンクション]スイッチを押しながら、本体のパネルに表示されているブリリアンスの鍵盤(白鍵D2からF2)を押します。明るめの音色にするときはブライト(F2)を、明るさを抑えた落ち着いた音色にするときはメロー(D2)を、標準的な音色に戻すときはノーマル(E2)を押します。

電源をオンにしたときはノーマルになっています。

音色に残響を加える(リバーブ)

本体左端の[ファンクション]スイッチを押しながら、本体中程のリバーブ・オン(G4)の鍵盤を押すと、音色に適度の残響が加わります。このとき本体左端の拍子木の[リバーブ]のランプが点灯します。[ファンクション]スイッチを押しながらリバーブ・オフ(A4)の鍵盤を押すと残響が消え[リバーブ]のランプが消灯します。

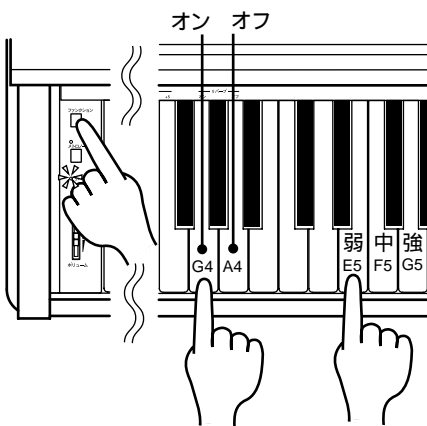
電源をオンにしたときはリバーブ・オンになっています。

▲ ピアノ1、2の音色では、アコースティックピアノの弦の響きをシミュレートするためリバーブをオフにしても、わずかに残響効果が残ります。

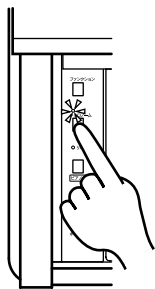
リバーブの効き具合をかえる


リバーブがオンのとき、本体左端の[ファンクション]スイッチを押しながら、本体中程のE5からG5の鍵盤(白鍵)を押すことでリバーブの効き具合をかえることができます。効き具合を弱く(残響を小さく)するときはE5を、効き具合を強く(残響を大きく)するときはG5を、効き具合を中ぐらいにするときはF5鍵盤を押します。

電源をオンにしたときは、音色ごとに最適なリバーブの効き具合が選ばれています。



5. メトロノームを使ってみましょう



 デモ・ソングの演奏中にメトロノームは使えません。

メトロノームのオン、オフ

本体左端の「メトロノーム」スイッチを押すとメトロノームがオンになり、スイッチ上のランプがテンポに合わせて点滅します。

もう一度「メトロノーム」スイッチを押すとオフになり、ランプも消灯します。

電源オンにしたときはテンポ120(♩)、拍子は4/4です。

テンポの調整

本体左端の「ファンクション」スイッチを押しながらメトロノームのダウンの鍵盤(G2)とメトロノームのアップの鍵盤(A2)で調整します。

「ファンクション」スイッチを押しながらダウン(G2)を押すたびにテンポが1下がります。

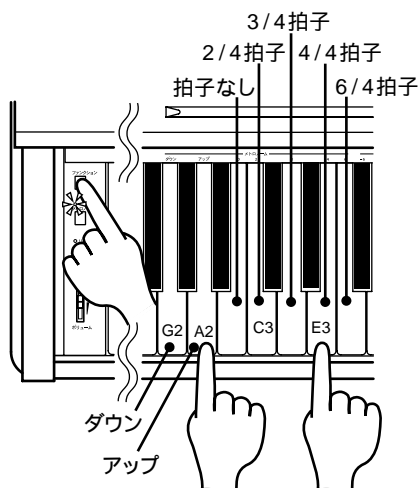
「ファンクション」スイッチを押しながらアップ(A2)を押すたびにテンポが1上がります。

「ファンクション」スイッチを押しながらダウン(G2)とアップ(A2)を同時に押すとテンポが120に戻ります。

正確にテンポを合わせるときは、「メトロノーム」スイッチを押しながら、P.14、15の「鍵盤の各機能一覧」の設定したいテンポ値の鍵盤を押してください。

拍子の設定

本体左端の拍子木の「ファンクション」スイッチを押しながら、メトロノームの0から6(B2からF3)の鍵盤を押すことで拍子の設定をかえます。0(B2)は拍子なし、2(C3)は2/4拍子、3(D3)は3/4拍子、4(E3)は4/4拍子、6(F3)は6/4拍子です。



6. ペダルを使ってみましょう

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類の機能があります。これらの機能を使って演奏をより効果的に表現することができます。

ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。

ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

ソステヌート・ペダル

任意の音に対してのみダンパー効果をかけます。

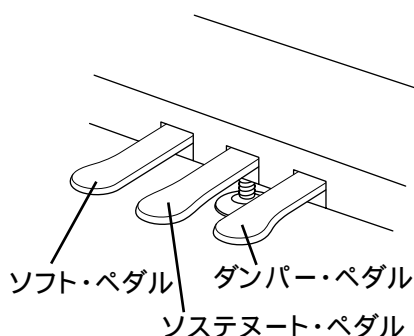
ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。

ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対してはダンパー効果はかかりません。

ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。


ペダルを踏み込む深さで音の柔らかさを変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。



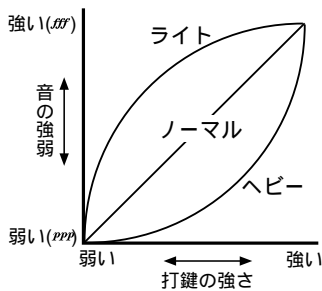
7. そのほかの機能

本機には音色を変えたり、デモ・ソングを聞くことなど以外にも、本体左端の [ファンクション] スイッチを押しながら、ほかの機能が割り振られた鍵盤を押すと各設定ができます。

また、MIDI関係の機能については次項「8.MIDI」をご覧ください。

 [ファンクション] スイッチを押している時は演奏しないでください。予期せぬ設定になることがあります。

鍵盤タッチ・コントロール



ピッチ・コントロール

ピッチの微調整を行います。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。

鍵盤タッチ・コントロール機能

タッチの鍵盤(白鍵A1からC2)で、弾いたときの強弱と音の度合いの関係を設定します(左図参照)。

[ファンクション] スイッチを押しながら、ライト(A1)を押すと、鍵盤を弱く弾いてもフォルテシモが出るようになります。

[ファンクション] スイッチを押しながら、ヘビー(C2)を押すと、鍵盤を強く弾かないとフォルテシモが出ないようにします。

[ファンクション] スイッチを押しながら、ノーマル(B1)を押すと、弾いた強さに合わせて通常のピアノのような音の出かたになります。電源をオンにしたときはノーマルです。

ピッチ・コントロール機能(チューニング)

C5、D5の鍵盤で本機のピッチ(音の高さ)を452.5から427.5Hz(ヘルツ)で0.5Hzごとに設定します。

[ファンクション] スイッチを押しながらC5を押すたびに0.5Hzピッチが下がります。

[ファンクション] スイッチを押しながらD5を押すたびに0.5Hzピッチが上がります。

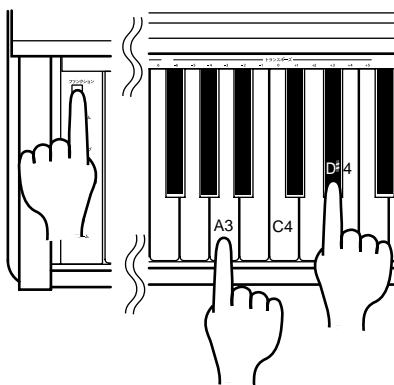
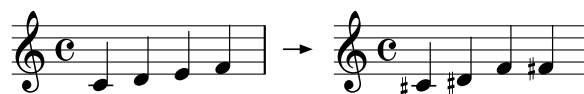
[ファンクション] スイッチを押しながらC5とD5を同時に押すと440Hz(基準ピッチ)に戻ります。

電源をオンにしたときは440Hz(A4)です。

トランスポーズ機能(移調)

黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、他の楽器や歌に演奏とキー(調)が合わせられないときなどがあります。このときキーをかえる(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲でずらすことができます。

たとえば1半音上げた場合、下図の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。

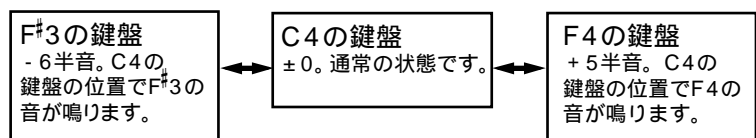


[ファンクション] スイッチを押しながら、トランスポーズの鍵盤 - 6から + 5(F#3からF4)のいずれかを押すと、キーに合わせてトランスポーズします。

弾いた鍵盤より低い音、たとえばC4の位置でA3(-3半音)の高さの音を出すには、[ファンクション] スイッチを押しながら - 3(A3)の鍵盤を押します。

弾いた鍵盤より高い音、たとえばC4の位置でD#4(+3半音)の高さの音を出すには、[ファンクション] スイッチを押しながら + 3(D#4)の鍵盤を押します。

[ファンクション] スイッチを押しながら、0(C4)の鍵盤を押すとトランスポーズなし(±0)の設定になります。電源をオンにしたときはトランスポーズなしです。



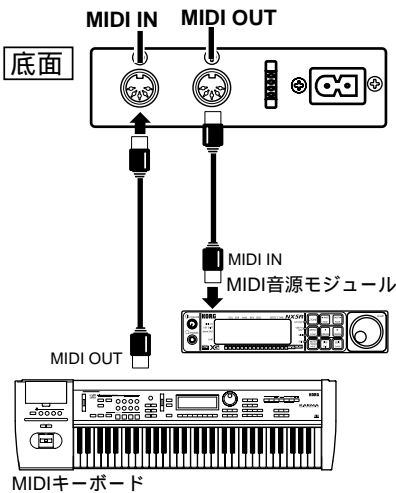
8.MIDI

MIDI(ミディ)とは?

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えやダンパー・ペダルなどの効果を一緒にコントロールすることができます。また、他のMIDIキーボードやシーケンサー(自動演奏装置)から本機をコントロールして、内蔵音源を鳴らすこともできます。複数のMIDI機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができます。

ここでは、本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方は、MIDIについてわかりやすく説明した本も、数多く出版されていますのでご利用ください。



MIDIの接続方法

MIDI情報をやりとりするには、MIDIケーブルを使います。このケーブルを本機底面のMIDI端子と、情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。本機のMIDI端子は2種類あります。

MIDI OUT...MIDI情報を送信します。本機の鍵盤を弾いたときに出力されるMIDI情報で外部MIDI機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本体のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDI IN...MIDI情報を受信します。外部MIDI機器(MIDIキーボードやシーケンサーなど)で、本機の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本体のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDIチャンネル

MIDI端子を使って、本機を演奏することによって他のMIDIを備えた楽器を鳴らしたり、コントロールするときに接続機器と同じチャンネルに設定します。

ローカル・コントロール

以下のようなときにオフにします。

- ・本機の鍵盤を弾いたときに本体の音源は鳴らさないうで、MIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合。
- ・シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合。

プログラム・チェンジ

MIDIプログラム・チェンジ・ナンバー(PC#)を使って、接続しているMIDI機器のプログラム番号を本機から切り替えたり、接続しているMIDI機器から本機の内蔵音源のプログラム番号を切り替えます。

対応しているMIDIプログラム・チェンジ・ナンバー(PC#)はプログラム・チェンジ対応表(P.14)をごらんください。

MIDIチャンネルの変更

G[♯]5からB6の鍵盤で、本体底面の端子(MIDI OUT)から送信するMIDIデータのMIDIチャンネル(1 ~ 16)を変更することができます。

たとえば、MIDI OUTに接続したMIDIチャンネルが2の機器を本機で鳴らす(コントロールする)には[ファンクション]スイッチを押しながらA5を押して、本機のMIDIチャンネルを2にします。電源をオンにしたときのMIDIチャンネルは1です。

ローカル・コントロールの切り替え

本機の鍵盤を弾いたときに本体からの音を出なくする(MIDIデータの送受信のみ行う)ときは、電源がオフの状態C8の鍵盤を押しながら[POWER]スイッチをオンにします。これで、ローカル・コントロールがオフになります。

C8の鍵盤を押さないうで電源をオンにしたときはローカル・コントロールがオンです。

▲ ローカル・コントロールをオフにすると鍵盤を弾いても音は出なくなります。

プログラム・チェンジの送受信

本機の音色を選ぶ(P.5 3.音色をかえて弾いてみましょう)とMIDIプログラム・チェンジ・ナンバー(PC#)を送信します。また、接続しているMIDI機器からMIDIプログラム・チェンジ・ナンバー(PC#)を受信すると、ノート・オン・メッセージを受信したときに発音する本機の音色を切替えます。

▲ プログラム・チェンジの受信で、本機の鍵盤を演奏したときの音色は、切り替えることができません。接続しているMIDI機器からノート・オン・メッセージを受信したときに演奏する音色だけが切り替わります。

マルチティンバー音源として使う

本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パートマルチ・ティンバ音源として動作します。接続したシーケンサーなどからの演奏データと一緒にプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、そのプログラム・ナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。

9. 故障とお思いになる前に

故障かなと思ったときは、次の事項を確認してください。それでも症状が改善されないときには、お近くの販売店またはコルグ・サービスセンターまでお問い合わせください。

電源が入らない

- ・電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか？ P.4
- ・電源コードのコネクタを本体底面のソケットに差し込んでいますか？ P.4
- ・電源スイッチがオンになっていますか？ P.4

スピーカーから音が出ない

- ・[ボリューム]スライダーが上がっていますか？ P.4
- ・ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか？ P.4
- ・ローカル・コントロールがオフになっていませんか？ P.9

音が途切れてしまう

- ・最大同時発音数を越えています。
前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的にならず仕組みになっているため、最大同時発音数を越えると音が切れてしまいます。ピアノ1以外の音色は、最大同時発音数が64音です。ピアノ1は2つのデータを使用しているため、最大同時発音数が32音になります。ダンパー・ペダルを使用するときや、レイヤーにして2つの音色を鳴らすときは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- ・ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、本機の不良ではありません。

ペダルの効果がかからない

- ・ペダル・コードがはずれていませんか？ P.12

接続したMIDI機器が送信したMIDIデータにตอบสนองしない

- ・MIDIケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。
- ・受信機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを送信していることを確認してください。 P.9

10. スペック

鍵盤	88鍵(A0～C8)
音色	7音色 ピアノ1、ピアノ2、E・ピアノ1、E・ピアノ2、 ハーブシコード、オルガン、ストリングス
最大同時発音数	64音
コントロール	パワー・スイッチ、ファンクション・スイッチ、メトロノーム・スイッチ、 ピアノ/トーン・スイッチ、ボリューム・スライダー
ペダル	ダンパー*、ソフト*、ソステヌート(*印:ハーフ・ペダル対応)
接続端子	ヘッドホン×2、MIDI(IN・OUT)、ペダル、ACインレット
アンプ出力	20W×2
スピーカー	12cm×2
定格電源	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	40W
外形寸法	1386.0(W)×458.0(D)×848.4(H)mm
重量	39.4kg(スタンド含)
付属品	ヘッドホン、椅子、AC電源コード、専用スタンド

- ・仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。
- ・MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・Sound Processed with INFINITY™

スタンドの組み立て方法



警告



必ず2人以上で組み立ててください。

組み立て時の注意

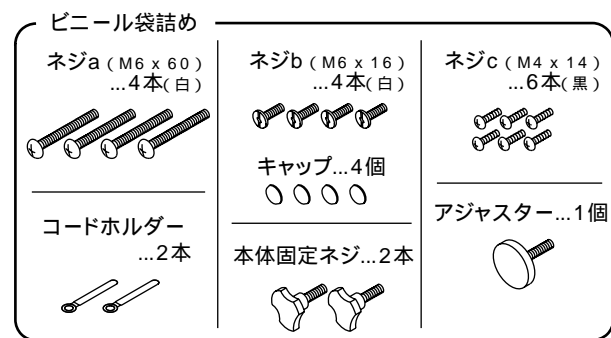
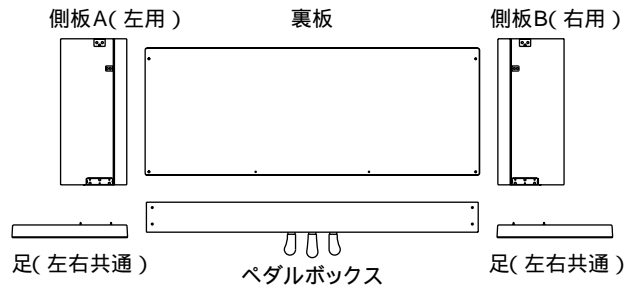
正しく組み立てるときは、以下の項目に注意して作業を行ってください。

- 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- デジタルピアノ本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

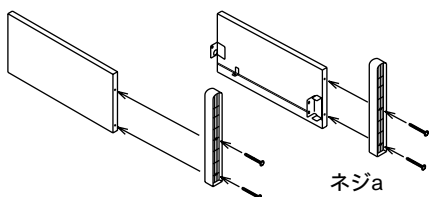
組み立て方法

お手持ちのプラスのドライバーを用意してください。

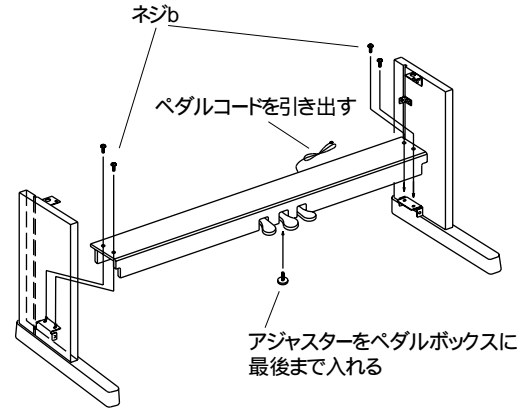
1. 箱を開けて部品を取り出します。
下記の部品が揃っていることを確認してください。



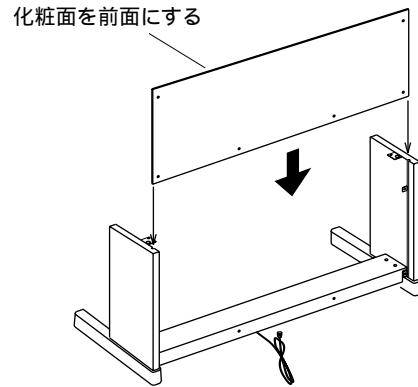
2. ネジaで、側板AとBに足を取り付けます。
足の2つの突起部分を、側板の穴にそれぞれ合わせてください。



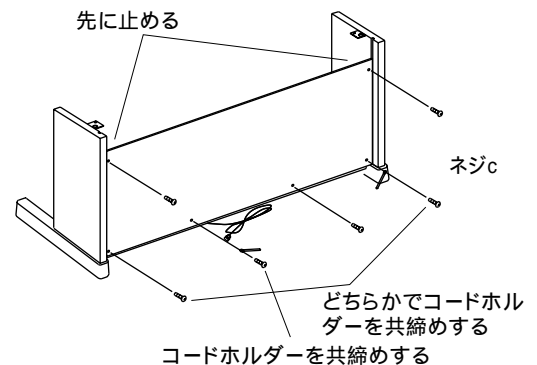
3. ネジbで、2で組んだ側板をペダルボックスに仮止めします。



4. スタンドをゆっくりと起こし、側板の溝に裏板をはめ込みます。



5. ネジcで、裏板を取り付けます。
先に裏板の上側(2ヶ所)を止めます。
下側を止めるときは、図のように、2ヶ所で、ネジcにコードホルダーを通し、スタンドに共締めします。右側または左側に共締めするかは、コンセントの位置を考えて決めてください。

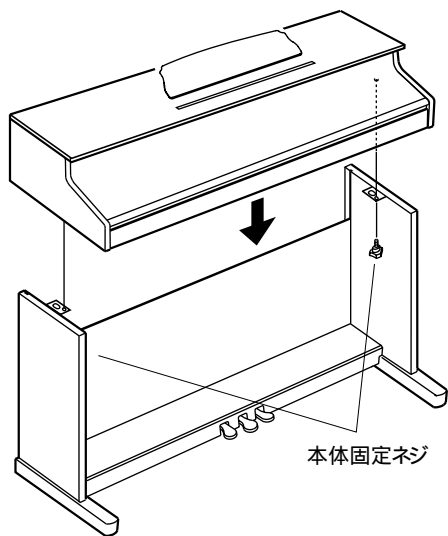


6. スタンドに隙間やかたむきがないことを確認し、すべてのネジをしっかりと固定してください。
ネジbのネジ頭にキャップをかぶせます。

7. 本体を取り付けます。

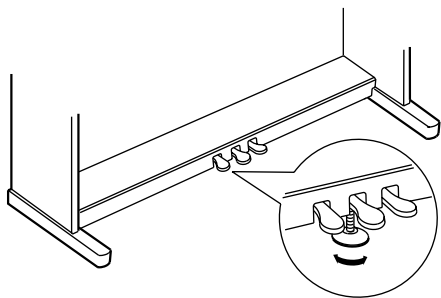
本体底面にあるプラスチック製の足を、側板の金具の穴に入るようにのせ、本体固定ネジで、下方から固定します。

- ⚠ 本体をスタンドにのせるときは、手を挟まないように、また下に落とさないように、ゆっくり行ってください。



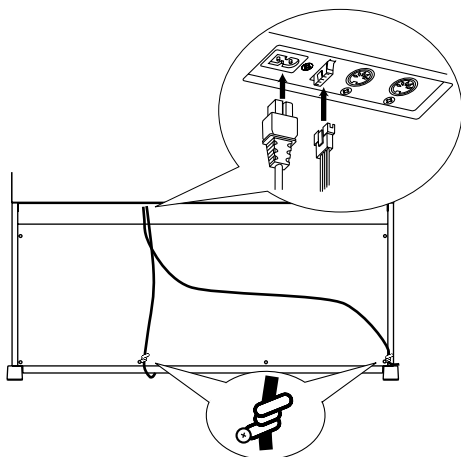
8. アジャスターを緩めて、アジャスターが床にしっかり当たるように調節します。

- ⚠ アジャスターが床にしっかり当たらないと、ペダルがぐらつき故障の原因になります。



9. ペダル・コードと電源コードを本体の底面に接続し、各コードをコードホルダーで固定します。

- ⚠ ペダル・コードの接続時は、コネクターの向きに注意してください。



組立後のチェック

- 部品は余っていませんか？
余ったときは、図中の使用先の位置を確認してください。
- 各ネジが緩んでいないかを確認してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

ネジの緩みについて

組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、定期的にネジの緩みを確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときはネジを締め直してください。

移動について

デジタルピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「取扱説明書」に従い、組み立て直してください。

分解について

スタンドを分解するときは、組立時の逆の順番で行ってください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

ファンクション...	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル: 電源ON時 設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	x *****	3 x	
ノート ナンバー: 音域	15-113 *****	0-127 21-108	
ベロシティ: ノート・オン ノート・オフ	9n, V=1-127 x	9n, V=1-127 x	
アフタータッチ: キー別 チャンネル別	x x	x x	
ピッチ・ベンダー	x	x	
コントロール チェンジ	7 x 11 x 64 66 67 91, 93 x 120 x 121 x		ボリュームチェンジ エクスプレッション ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル リバーブセンド、コーラスセンド オールサウンドオフ リセットオールコントローラーズ
プログラム チェンジ: 設定可能範囲	0-27 *****	0-27 0-27	
エクスクルーシブ			Device Inquiry
コモン: ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	x x x	x x x	
リアルタイム: クロック コマンド	x x	x x	
その他: ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	x x x	123-127 x	
備考 ハーフペダルの出力値 (0, 38, 74, 127)			

モード1: オムニオン、ポリ
モード3: オムニオフ、ポリ

モード2: オムニオン、モノ
モード4: オムニオフ、モノ

: あり
x: なし

プログラム・チェンジ対応表


PC#	音色	PC#	音色	PC#	音色
00	ピアノ1	10	ピアノ1 + ハープシコード	20	E.ピアノ1 + オルガン
01	ピアノ2	11	ピアノ1 + オルガン	21	E.ピアノ1 + スtringス
02	E.ピアノ1	12	ピアノ1 + Stringス	22	E.ピアノ2 + ハープシコード
03	E.ピアノ2	13	ピアノ2 + E.ピアノ1	23	E.ピアノ2 + オルガン
04	ハープシコード	14	ピアノ2 + E.ピアノ2	24	E.ピアノ2 + Stringス
05	オルガン	15	ピアノ2 + ハープシコード	25	ハープシコード + オルガン
06	Stringス	16	ピアノ2 + オルガン	26	ハープシコード + Stringス
07	ピアノ1 + ピアノ2	17	ピアノ1 + Stringス	27	オルガン + Stringス
08	ピアノ1 + E.ピアノ1	18	E.ピアノ1 + E.ピアノ2		
09	ピアノ1 + E.ピアノ2	19	E.ピアノ1 + ハープシコード		

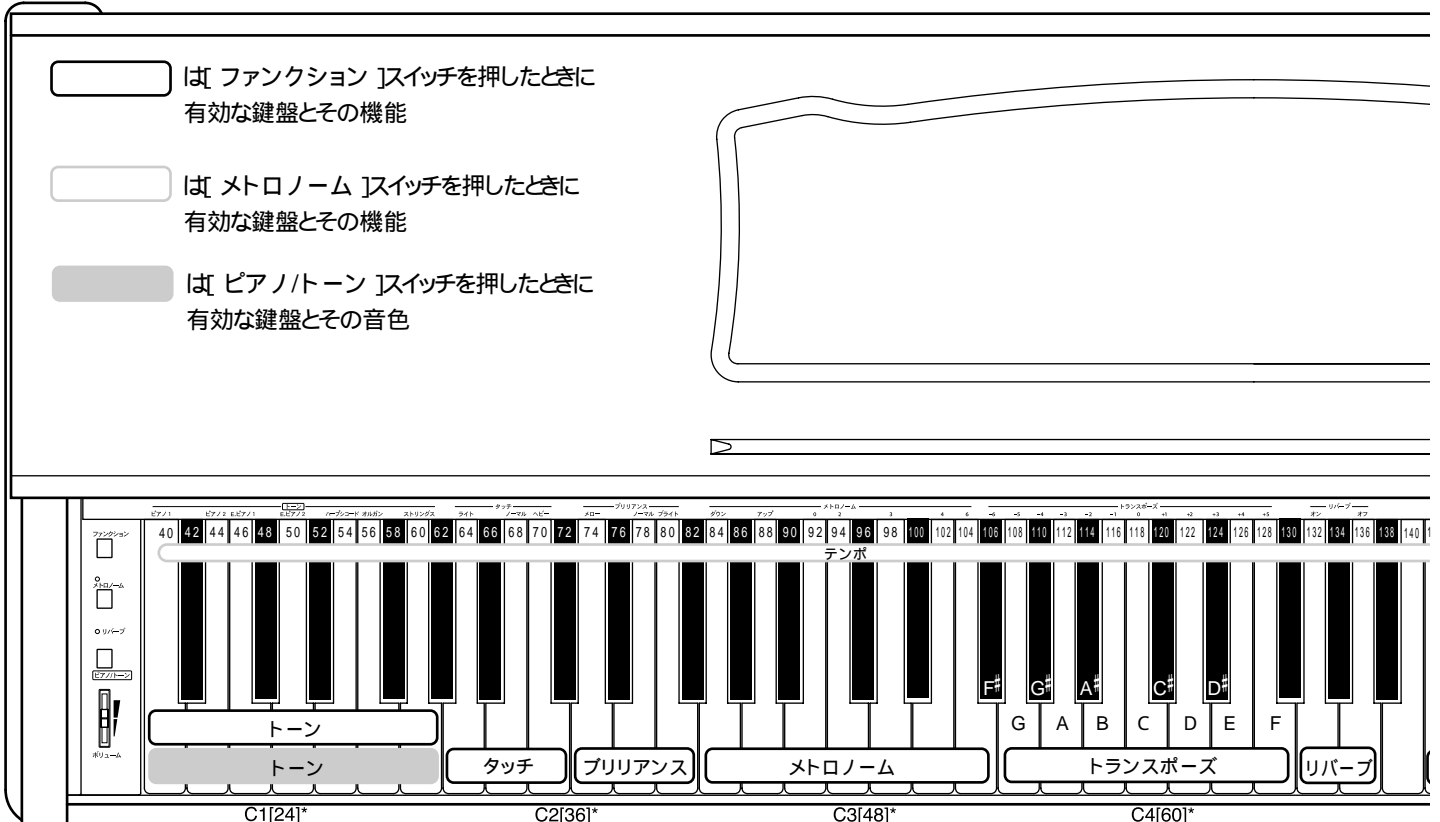
0~27のMIDIプログラム・チェンジ・ナンバーを受信したときに音色が切り替わります。

7~27はレイヤーの音色になります。

外部MIDI機器より28以上のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信しても本機の音色は切り替わりません。

鍵盤の各機能一覧

-  [ファンクション]スイッチを押している時は演奏しないでください。予期せぬ設定になることがあります。
[]はMIDIノートNo.です。



は [ファンクション] スイッチを押したときに有効な鍵盤とその機能
 は [メトロノーム] スイッチを押したときに有効な鍵盤とその機能
 は [ピアノトーン] スイッチを押したときに有効な鍵盤とその音色

ファンクション: 40, 42, 44, 46, 48, 50, 52, 54, 56, 58, 60, 62, 64, 66, 68, 70, 72, 74, 76, 78, 80, 82, 84, 86, 88, 90, 92, 94, 96, 98, 100, 102, 104, 106, 108, 110, 112, 114, 116, 118, 120, 122, 124, 126, 128, 130, 132, 134, 136, 138, 140
 テンポ
 トーン
 トーン
 タッチ
 プリリアンス
 メトロノーム
 トランスポーズ
 リバーブ
 G A B C D E F
 C1[24]* C2[36]* C3[48]* C4[60]*
 音色をかえて弾く時の設定 弾いたときの強弱と音のでかたを設定 音の明るさの設定 メトロノームの速さの調整と拍子の設定 トランスポーズの設定 残響効果のオン、オフ

アフターサービス

製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一、保証期間内に製造上の不備による故障が生じた場合は、無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし、次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品(電池など)を交換する場合。
2. 輸送および移動時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災(火災等)によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーションおよびコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が、不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

修理や運送費用が、製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめコルグ・サービスステーションまたはインフォメーションへご相談ください。運送にかかる往復の費用は、お客様のご負担とさせていただきます。

当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3か月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。コルグ・サービスステーションまたはインフォメーションまでお問い合わせください。

保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品(電子回路など)は通常8年間を基準に保有しております。ただし、外装部品(パネルなど)の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

株式会社コルグ

インフォメーション	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	TEL (03) 5376-5022
東京営業所	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	TEL (03) 3323-5241
名古屋営業所	〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51	TEL (052) 832-1419
大阪営業所	〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F	TEL (06) 6374-0691
福岡営業所	〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F	TEL (092) 531-0166

修理等は、最寄りの各営業所または下記までお問い合わせください。

営業技術課	〒143-0001 東京都大田区東海 5-4-1 明正大井5号営業所 コルグ物流センター内	TEL (03) 3799-9085
-------	---	--------------------

<WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。)

KORG

本社：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 TEL (03) 3325-5691
 インフォメーション：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 TEL (03) 5376-5022
 東京営業所：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17 TEL (03) 3323-5241
 名古屋営業所 / ショールーム / スタジオ：〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51 TEL (052) 832-1419
 大阪営業所：〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川 5 番館 7F TEL (06) 6374-0691
 福岡営業所：〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第 2 池田ビル 1F TEL (092) 531-0166

URL: <http://www.korg.co.jp/>